

# 感謝

平成二十五年八月一日  
平成二十五年八月三十一日

## 愛寿会・仁生園・第二仁生園への ご協力ありがとうございます。

いつもご協力をいただき心から感謝申し上げます。今後とも利用者の皆様に、よりご満足いただける施設運営を目指し役職員一体となつて誠心誠意努めて参ります。

何卒、これからもご支援のほどを、また、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。また、ご叱正を賜りながら、お礼状に替えさせていただきます。

### 金員・物品のご寄附

- ・ 小泉地区更生保護女性会 代表 板山 玉枝 様
- ・ 北杜市 堀 込 一 幸 様
- ・ 北杜市 植 松 本 様
- ・ 北杜市 長 坂 金 曜 会 様

### ボランティア活動

- ・ レクボランティアほがらかグループ 代表 吉田 道子 様
- ・ レクボランティアゆずっこの会 代表 佐野 恭子 様
- ・ 北杜市 うたななかま八ヶ岳 様
- ・ 北杜市 保 坂 多 枝 子 様
- ・ 北杜市 青 柳 昭 次 様
- ・ 北杜市 新 海 昭 枝 様
- ・ 北杜市 井 上 早 智 子 様
- ・ 北杜市 三 村 明 子 様
- ・ 小泉地区更生保護女性会 代表 板山 玉枝 様

### 小泉地区更生保護女性会様

ありがとうございます



残暑厳しい八月二十二日（木）、小泉地区更生保護女性会 五名の方々が、中庭の草取り等のボランティアに来てくださいました。今年是全国的に猛暑日が続き、涼しいと言われる小荒間の地の草も伸び放題…作業のお陰でとても綺麗になりました。ありがとうございました。

### 千葉県白井市の湯浅様から

今年も梨をいただきました

湯浅四郎様・昌枝様ご夫婦から、白井市特産の梨「豊水」をたくさん送っていただきました。とても大きくみずみずしい梨に、仁生園・第二仁生園両園の皆様大感激。ごちそうさまでした。



### 愛寿会後援会へのご協力

- ・ 北杜市長坂町 武 田 和 久 様
- ・ 北杜市高根町 伊 藤 美 浩 祥 潔 様
- ・ 北杜市高根町 伊 藤 祥 潔 様

## 新規加入のお願いと個人会員・法人又は団体会員の皆様へのお願い

ご高齢の皆様、また、心身に障害をお持ちの皆様のために、ふるってご加入、お振込のほどをお願い申し上げます。

### 新規加入の方

- 終身会員 20 万円以上
- 個人会員（年額） 2,000 円以上
- 法人又は団体会員（年額） 10,000 円以上

### 継続の方

- 個人会員（年額） 2,000 円以上
- 法人又は団体会員（年額） 10,000 円以上

## 会費の納入先

山梨中央銀行 長坂支店  
口座名 社会福祉法人 愛 寿 会  
口座番号 普通預金 241903

郵便局  
口座名 社会福祉法人 愛 寿 会  
口座番号 00210-8 46492

## 事務局

山梨県北杜市長坂町小荒間 1293 番地  
社会福祉法人 愛 寿 会  
電話 0551-32-3340

愛寿会のサービスにご意見・ご要望、また、施設見学等のご希望がございましたら左記までご連絡ください。

仁 生 園 電 話 0 5 5 1 ( 3 2 ) 8 2 7 0  
第 二 仁 生 園 電 話 0 5 5 1 ( 3 2 ) 8 2 7 0



40 周年を迎える、社会福祉法人 愛寿会 福祉総合生活支援センター 仁生園。

# 愛寿会 たより

9 月号  
第 171 号  
平成 25 年  
9 月 1 日発行

## 福祉の心を見失うことなく

社会福祉法人愛寿会 法人事務局長 小林 まち子



四月一日付で法人事務局長を拝命いたしました。

地域の高齢者介護や障害者支援を支える愛寿会の責務の重大さに、身の引き締まる思いであります。

今まで行政の経験はありますが、高齢者介護や障害者支援は初めてで、法人本部の業務についても不安でしたが、反面、新しい分野を学び働くことができる機会をいただき、福祉の一端に関われることに感謝しております。

社会福祉法人の役割は、認知症ケアや看取りケアによって、地域の要介護ニーズを解消し、これまで培ってきたノウハウを地域に提供し、介護保険サービスだけでなく、幅広い生活支援等で、福祉的地域貢献を果たすべきというお話を伺いました。

今、国では「税と社会保障の一体改革」が取沙汰されています。消費税のことはさておき、社会保障制度に携わる者としては、「介護制度改革」「医療制度改革」「年金制度改革」及び「少子化対策」などがどうしても気になる所です。

年金の改革では、厚生年金の支給開始年齢が、六十五歳まで段階的に引き上げられようとしていること。医療の改革では、高齢者七十歳（七十四歳）の医療機関での窓口負担が、一割から二割へと引上げが検討されていること。更に介護の改革では、「要支援」とされた

高齢者の地域包括推進事業への段階的な移行などととも、一定以上の所得がある介護保険を利用されている方々の負担増を模索する動きがあることなど、これから様々な施策が具体化され、実施されていくものと思われる。

とは申しませんが、いかに制度が変わろうとも、福祉の心を見失うことなく、「愛寿会」のモットーであります

「利用者本位のサービスの実践」  
「専門性の活かせる職場づくり」  
「地域社会との協働と貢献」

をしつかり守り、ご利用者や地域の皆様方のお支えをいただき、微力ではありますが頑張つて努めて参りたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

仁 生 園

～ 迎え火・送り火 ～

今年も仁生園正面玄関にて、八月十三日にお盆の迎え火、十六日には送り火を執り行いました。



毎年多くの利用者様に参加していただいています。今年も迎え火二十七名様、送り火にも十八名様程参加していただき、職員の協力により無事行うことが出来ました。強い日差しではありましたが、風は穏やかで、炊いた火の前で代表の方に線香をあげ拝んでいただきました。

車椅子や歩行器を使用している方は、足元が傾斜になっており不安定なため、職員が玄関先まで線香立てをお持ちし行いました。参加された利用者様全員に、手を合わせて丁寧に拝んでいただきました。



～ お盆恒例 小荒間 鈴みこし ～

「お神輿が来ますよ～」 ワーカーの掛け声に、利用者の皆様の表情が急に明るくなります。今年も十四日に小荒間地区の二十一名の子供達とご父兄、地区役員様が沢



山来てくれました。汗だくで顔を真っ赤にした子供達の可愛いことと、両手を挙げて嬉しさを表現してくれる利用者様の姿も見受けられました。地区の中の施設としての役割を果たしながら、次の世代の子供たちとの繋がりが感じられる行事は、とても有意義でした。

～ 華道 ～

華道は、皆様が毎月楽しみにしている行事の一つです。

今月は、小菊やケイトウなど秋の訪れを感じさせる花材で、ミニ活花を作成。

「りんどうの色がいいね」と愛しそうに見つめる先には、自宅の庭先の風景が浮かんでいるようでした。



公益財団法人JKAから補助を受け、デイサービスセンターに送迎福祉車両が整備されました。

事業名 平成二十五年度福祉車両の整備事業

事業の内容 移送車2 スロープ式車椅子仕様

補助金額 187万5千円

完了年月日 平成二十五年九月六日

この事業は「競輪」の補助金で整備しました。

七人(車イス利用時五人)乗りで、今まで以上に快適な送迎ができるようになりました。昇降はスロープ式で電動ウインチベルトを使用していますので力要らず。安心安全な昇降ができます。



社会福祉法人 愛寿会

創立四十周年記念

おかげさまで持ちまして当愛寿会は設立四十周年を迎えることとなりました。

設立以来幾多の曲折を経てまいりましたが幸い今日に至りましたことは、ひとえに皆様方の多大なるご支援、ご助力の賜と深く感謝いたしております。

～ 創立四十周年記念事業 ～

◇ 創立四十周年記念式典の開催

平成二十五年十月三日午前十時

・ 記念講演会 樋口恵子 先生

・ 記念式典

・ 記念祝賀会

◇ 記念誌の発行

## 第二仁生園

## 「山の音楽隊」の楽しい演奏を聞きました

八月四日、横浜楽友協会「山の音楽隊」の皆さんが第二仁生園へ演奏に来てくださいました。

金管・木管・打楽器の器楽演奏を初めて聞いた利用者様がほとんどで、勇壮なトランペットの音色に感激したり、めずらしい太鼓に興味を持って叩かせてもらったり、音楽に合わせて踊ったりと音楽を体感していました。

当日は、長坂町内のNPO法人「キッズクラブひまわり」の利用者様も来園し一緒に聞き楽しいひとときを過ごしました。

軽快な「あまちゃん」のオープニングテーマから懐かしの「ブルーライトヨコハマ」「明日があるさ」と、

十曲以上の楽しい演奏会はあつという間で、「是非また来てください。」と、握手をしてお別れをしました。



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会では勤続二十年の職員に「表彰状」、十五年の職員には「感謝状」の授与を行うことになっています。

今年度の対象者は左記の二名です。

## 二十年を振り返って

保坂千秋



平成四年十二月、福祉のことに ついて何も知らない私が、仁生園で働くようになってからもう二十年、本当にあつという間に過ぎてしまったというのが実感です。「利用者様のお名前を覚えることだけで精一杯で、一日が終ってしまふ」そんな毎日が続きました。

「自分には出来ない、もう辞めたい」そう思ったことも何度もありました。そんな時いつも私を支えてくれたのが、先輩方の励ましの言葉と、利用者の方々の「ありがとう」の一言でした。

当時、男性職員は本当に数える程しかおらず、悩みを相談することも出来ずにいましたが、いつも私のことを心配してくださり、力になってくれた先輩方には本当に感謝しています。また、些細なことでも「ありがとう」と言ってくれる利用者の皆さん、その一言で何度も勇気づけられました。二十年経った今でも感謝の気持ちを忘れず、「自分でも役に立っている、ありがとう」と言ってもらえることに自信を持っています。これからも日々努力して行きたいと思っています。今後よろしくお願いいたします。

## 継いでゆく

松田敏美



どれ程の人々が、この先の人の暮らし、自然の一部である私たちの今後を考えているのでしょうか。

東日本大震災以来、多くの人々が衝撃を受け考える機会をもったことでしょう。しかし、日々その生活に慣れていくと、その感情が薄れ、大切な感覚が失われていく不安を感じています。介護の仕事においても、絶え間ない日々の中で、入所される方々の人生を見つめ考えているのでしょうか。

利用される方々の、更なる平穏安心はもちろん、施設、職員一人一人を含め、誰かが犠牲になることが当たり前にならず、社会、国全体がお互いのために、皆が満足できる介護環境を考えることは、介護に止まらず今後の次世代に継ぐ道しるべになると感じています。

この十年、二十年で世界や日本も大きく変わったと言う人が多いのですが、しかしそれは経済を中心とした効率と快適のみを追求した現代文明という表層の上だけであつて、この大地という自然の営みの内では本質的には何も変わっていないと感じています。

次世代に『継ぐ』……。何をどう考え行動して継いでいくのか、私達世代には重い、しかし、今を生きている幸せを感じながら、この日々を継いでいきたいと思っています。